

平成20年度子どもホタルレンジャーの表彰について

1. 受賞団体

平成20年8月18日～平成21年1月19日の間、募集を行い、全国から41団体（小学校の部22団体、中学校の部7団体、団体の部12団体）の応募がありました。審査委員会の審査結果を踏まえ、以下のとおり、環境大臣賞3団体、優秀賞3団体、特別賞1団体、奨励賞1団体を決定しました。

○環境大臣賞	小学校の部	岡崎市立鳥川小学校（愛知県）
	中学校の部	水戸市立国田中学校 生物研究部・3年1組ホタル研究班（茨城県）
	団体の部	久米島ホタルの会 守れホタル・ジュニアーズ（沖縄県）
○優秀賞	小学校の部	千歳市立桜木小学校 第3学年「ゆうまい川不思議発見隊」（北海道）
	小学校の部	加東市立東条東小学校第4学年（兵庫県）
	中学校の部	宇都宮市立瑞穂野中学校（栃木県）
○特別賞	団体の部	箱島子どもホタルレンジャーの会（群馬県）
○奨励賞	団体の部	千曲市立あんず保育園「ホタルにあいたい！」（長野県）

【受賞団体の審査概要】

環境大臣賞

応募のあった活動レポートの中から、部門ごとに特に優秀な作品（団体）

【小学校の部】

<p>岡崎市立鳥川小学校 <small>とっかわ</small> 「ふるさとを愛し、守り育てる「鳥川ホタルの里活動」 ～地域と協力して行う「ホタル保護活動・山歩きコースの整備」～ （愛知県岡崎市、8名、小学2・3・5・6年生）</p>
<p>全校児童8名と地元の「鳥川ホタル保存会」が協力して、ホタルの保護活動と水環境の保全活動を積極的に推進している。「ホタルの里の山歩きコース」整備や、様々な集会で活動報告を通して、水環境を守るためには森林保全がかかせないことを広く伝えているなど、森林と川、ホタルの関係に着目し、広い視野にわたった活動の一つ一つに込められた熱意が高く評価された。</p>

【中学校の部】

<p>水戸市立国田中学校 生物研究部・3年1組ホタル研究班 <small>くにた</small> 「ホタルの里国田」の再生を目指して ～小場江のホタルは、なぜいなくなってしまったのか。」 （茨城県水戸市、32人、中学3年生・1年）</p>
<p>37年の歴史を持つ生物研究部を中心に、併設の小学校や地域と連携して、ホタル保護・研究活動を展開。人工の光や温度がホタルの生育にどのように影響するかを調べた。さらに3年1組の理科の学習で、ホタルがいなくなった理由を取りあげ、班毎に水質調査、水生生物調査、生態系（エサ、天敵）調査などに取り組んだ。</p> <p>仮説を立て調査し、考察するというプロセスが丁寧にまとめられていること。新たな</p>

課題にもチャレンジし、自主的活動を展開している点が高く評価された。

【団体の部】

くめじま
久米島ホタルの会 久米島ホタルレンジャー 守れホタル・ジュニアーズ
「久米島のきれいな水で生きている生きものを知り隊・守り隊」
(沖縄県島尻郡久米島町、38人、幼児～小学6年生)

川の生きもの観察や飼育、調査活動、アンケート調査等、クメジマボタルホタル保護のための活動や海や川をきれいにするためのごみ拾い、そして発表会を通して、久米島の自然を大切にすることの意義を積極的に訴えた。離島生態系の保護のために、多様な活動を楽しく展開しており、地域の自然、生態系に着目した活動に説得力がある点が、高く評価された。久米島にしか生息しない、貴重なクメジマボタルの観察をさらに継続・発展していくことが望まれた。

優秀賞

応募のあった活動レポートの中から、部門ごとに環境大臣賞まで至らないが優秀な作品(団体)

【小学校の部】

千歳市立桜木小学校 第3学年 「ゆうまい川不思議発見隊」
「ゆうまい川ふしぎ発見隊」
(北海道千歳市、79人、小学3年生)

ゲンジボタルが生息しない北海道で、ヘイケボタルを選んで、調べ学習、飼育、保護している。水生生物の分類やスケッチ、標本づくりなど、3年生のレベルで、調べたり、考えたり、興味を膨らませていること、ホタルを通して、「命」の繋がり、大切さを学習していることが高く評価された。

加東市立東条東小学校 4年生
「とりもどそう ホタルの住む川を」
(兵庫県加東市、39人、小学4年生)

川の汚れの調査から始め、ホタルが住める条件と合うのか、ホタルの生息調査を実施。川を汚す原因は家庭から出る生活排水が大きいことを知り、夏休みには全員が、各家庭で水を汚さない取り組みを行った。
身近なところから水質保全に取り組み、何が水質汚染の原因で、どうすれば良いのかというところまで、導き出している点と、その実践力が高く評価された。

【中学校の部】

宇都宮市立瑞穂野中学校第1学年
「瑞中ホタルの里」
(栃木県宇都宮市、80人、中学1年生)

1学年の3クラス80名が総合的な時間に活動。学級2名の「ホタルリーダー」を中心に活動計画を立て、ホタルとカワニナの飼育活動。学区の河川の水質調査を実施し、昨年の調査結果と比較し環境の変化を調べる活動。学級ごとに設定した課題解決学習を行っている。

ホタルを通じた環境変化の課題を整理している点、学年全体の積極的な取り組みが評価された。

特別賞

応募のあった活動レポートの中から、これまで環境大臣賞の受賞歴がある団体で、優秀な作品と認められる団体

【団体の部】

<p><small>はこしま</small> 箱島こどもホタレンジャーの会 「ホタルと人が暮らす自然を守ろう！」 (群馬県吾妻郡東吾妻町、35人、小学1年生～6年生)</p>
<p>昨年度、環境大臣賞受賞。ホタルの発生数調査やカワニナを調べたり、ホタルの天敵ザリガニ退治や川遊びをしたりしながら、自然の素晴らしさを体感している。毎年6月下旬に開催しているホタル学習会で、こどもホタレンジャーが中心になってホタルの説明を行ったり、見学者に自然保護のメッセージを書いたしおりを作って配るなど、3年目で子どもたちの成果は大きく、自分たちで調べたことを発見し、人との共生という意識が強くなった点が評価された。</p>

奨励賞

小・中学生、子どもがレポートを記載するという応募条件を満たさないため選外となったが、優秀な作品と認められて受賞（今回初めて設定）

【団体の部】

<p><small>ちくま</small> 千曲市立 あんず保育園 「ホタルにあいたい！」 (長野県千曲市、73人、幼児)</p>
<p>保育園の小川を「ほたるがわ」と名付け、年中組を中心に全園児でゴミ拾いや草取りなどを実施。地元の方が飼育していた幼虫を子ども達と一緒に放流し、ホタルが飛ぶのを生まれて初めて見て感動。その後、カワニナ飼育、ホタルのDVD観賞、幼虫の飼育にも挑戦している。</p> <p>審査対象外だが、環境教育の原点は幼児からで、将来のホタレンジャーになることを願い、保育士の先生方と園児の健闘努力を称えることとした。</p>

2. 表彰式・活動報告会

平成21年3月30日（月）14時30分より、共用第1会議室（中央合同庁舎5号館22階）において、各賞の表彰式及び活動報告会を行いました。



こどもたち全員と大臣の記念撮影（上）
環境大臣賞受賞団体と大臣の記念撮影（下）



小学校の部 岡崎市立鳥川小学校（愛知県）



中学校の部 水戸市立国田中学校
生物研究部・3年1組ホタル研究班（茨城県）



団体の部 久米島ホタルの会 守れホタル・ジュニアーズ（沖縄県）

活動報告会の様子

環境大臣賞



岡崎市立鳥川小学校（愛知県）



水戸市立国田中学校 生物研究部
・3年1組ホタル研究班（茨城県）



久米島ホテルの会 守れホタル
・ジュニアーズ（沖縄県）

優秀賞



千歳市立桜木小学校 第3学年
「ゆうまい川不思議発見隊」(北海道)



加東市立東条東小学校
第4学年（兵庫県）



宇都宮市立瑞穂野中学校（栃木県）

特別賞



箱島子どもホタルレンジャーの会（群馬県）

奨励賞



千曲市立あんず保育園「ホタルにあいたい！」（長野県）

子どもホタルレンジャーHP

<http://www.env.go.jp/water/info/hotaranger.html>

<http://mizumidori.jp/hotaru/>